

# 青連協会長対談シリーズ

## 第2回 全法連 池田会長との対談

全法連  
池田 弘一 会長



青連協  
醍醐 正明 会長

日時： 平成 27 年 10 月 22 日（木）午後 3 時～

場所： 全法連会館 6 階 応接室



（写真左：醍醐青連協会長、写真右：池田会長）

### 法人会の現状について

**醍醐** まず、法人会の現状についてお話しいただけますでしょうか。

**池田** 会長になってちょうど丸3年経ちました。街の酒屋さんが非常に元気だった頃、酒屋さんは地域の有力者で、町内会や色々な役をされていたものです。中には法人会に入っているお得意さんもいたので、法人会や間税会、青色申告会という言葉は知っていましたが、実際どういうものかは知りませんでした。前任の大橋会長から頼まれて会長職を気楽に引き受けましたが、会員100万社、予算100億と聞いてびっくりしました。これだけの規模と予算金額の団体は他にはないでしょう。色々とレクチャーされましたが、とにかく凄いことをやっている組織だと思ったのが正直なところです。租税教室の話聞いたときも最初はピンと来なかったんですが、青年の集いで発表を初めて聞いた時は感激しました。法人会は今、新しい理念のもとで更に発展し続けなければいけない訳ですが、課題の一つとして会員の減少が挙げられると思っています。60年の歴史があり仕組みも変わりましたが、ちょうど転換期に来ているのかもしれないね。

**醍醐** 会員の減少というお話が出ましたが、青年部会もまさにそこが問題だと思っています。現在、租税教育活動を柱に活動していますが、その質と量をアップしていきたい一方で部会員数が減り、活動自体が限定されてしまっています。頑張れば頑張るほど部会員の負担になってしまう。そんな状況も踏まえ、青年の集いの部会長サミットでは部会員増強をテーマに議論するつもりです。リーダーがいかに強い思いを持ち続けられるか、いかに新しい部会員を獲得し、その部会員を定着させていくか、とても大事だと思っています。

**池田** 青年部会は親会のあとから出来たんですよね。

**醍醐** そうですね。法人会の中で、若手の人たちでも集まる場所を作らしようということで出来ました。

**池田** 二代目も入っているわけですよね。比率はどれぐらいですか？

**醍醐** 正確な数字はちょっと分からないのですが、全国の部会員3万人の中で、二代目、三代目の人が多いと思います。

**池田** 実はこの前の徳島大会の時、かつてのお得意先と昼飯を食べたんです。そこで「法人会には入るとるやろうな」って聞いてみたら「いや、俺の時は入ってたんだけど、息子に（代が）替わったら退会したようだ」と言われてね。世代交代の時、確実に法人会も引き継いでもらわないと、と思うんです。あと、若い経営者さんには、まずは青年部会に入りませんかというアプローチがいいんじゃないかなと。親会は大変なイメージがあるけど、同じ世代でワイワイ楽しくやってる青年部会にまず来てみないか、ということなら誘いやすいと思うんです。それから、単位会の青年部会はそんなに大勢の組織ではないですよね。だから、活動してもらっている方々にはかなりご負担をかけているんじゃないかと思うんです。租税教室にしろボランティアにしろ、相当なエネルギーと時間を注がないとできないはず。だから、あれもこれもじゃなく、会員のニーズに合わせた活動に集中していくようにした方がいいのかなと思ったりしています。

**醍醐** 確かに単位会によって温度差があって、凄く頑張ってるところや逆にそこまでやらなくてもいいんじゃないか、というところもあります。

**池田** 頑張っているところを増やすのが1番手っ取り早くて、底上げはなかなか難しい。営業成績もそうで、誰か一人がトップを走るから他の営業マンも頑張ろうとする。その結果、平均が上がる。親会でも青年部会でも、たった一つじゃ困るけれど2割ぐらいの部会がもの凄く実績を上げてくれると、じゃあ俺たちも、となるかもしれませぬ。



## 法人会の認知度について

**醍醐** 法人会は素晴らしい活動を沢山行っているにも関わらず知名度があまりに低いと感じています。友人に話しても「え、何？法人会って。」って言われます。親会なら全国80万社、ちょっと前まで100万社もあって凄い存在感と規模なのに、あまりに知られていない。会員増強にはまず知名度を上げていかないと。キッザニアはよくメディアに取り上げられますが、他の租税教育や社会貢献活動だってニュースソースとしては価値があるはずです。意識してメディアに取り上げてもらえるよう働きかけたり、SNSの有効利用など、今以上に意識してやっていきたいと思っています。

**池田** その通りですね。私も、自分の力不足だと思うんですが本当に知名度がない。経済人と話しても知っているのはよくて1割。「え？商工会じゃないの？」と言われるのが6割。国税庁が監督官庁だったことでオーバープレゼンテーションを自粛した経緯があるからかもしれません。公益になってから、逆にそこから正式に離れた不安感も多少お持ちだと思うんですが、今のところは国税庁や国税局、税務署とも以前と変わらない関係だし、知名度のアップについては今後、ちゃんと考えないといけないですね。

## 租税教育への取り組み

**醍醐** うちの雪谷法人会では租税教室が今、凄く活発なんです。何故かというと、教師だった人が家業を継いで法人会の会員になったんですが、彼が租税教育に力を入れてくれていて。話し方や子供たちの興味の引き方など、指導要領に合わせて実践しているので子供たちの食いつきが全然違うんです。青年部会全体でそういうノウハウを共有出来たらいいのかもしれないですね。

**池田** それは文科省の指導要領に働きかけるとか、うまく広報出来るといいですね。あと、税ってというのはどうもまだ年貢みたいに受け取られているイメージが強い。本当は、これだけ払うからこういうことをしてくださいとか、こういう事業をやるからお金をくださいねっていう、フィフティフィフティの関係なのに、どうもワンウェイのように誤解されている。そうじゃないっていうことを子ども達に教えることは物凄く大切で、それをやっている現状をもっとPR出来るといいと思います。事実、こんなに真剣にやっているところ、他にはないと思いますよ。

**醍醐** そうですね、租税教育を法人会のように活発にやっているところは他には無いようですね。ただ、学校の先生の中にあまり積極的でない人もいますよね。

**池田** まずは、これだけの会員がいて、こういう（租税教育）活動をやっていることを、きちんと広報していかないと駄目ですね。

## いろいろな人との出会いが法人会の最大のメリット

**池田** 法人会はいろいろな人たちがたくさん集まっているというメリットをもっと前面に出すべきだと思うんですね。私は社長になるまで仕事上ではビール事業に関係している人以外、ほとんど知らなかったんです。取締役になった頃、経営者からもう少し様々な会社の人とつき合って話を聞くように言われましたが、そんな時間はとてもない訳ですね。自分が社長になった最初の頃も全然時間はなかったけど、後半はいろいろな人とつき合うことが増えていって、幅広い話を聞くことが出来ました。皆、業界が違うから他の人の話は新鮮なわけです。ビールを売り込むのは具体的にはどういうことかなど、皆興味津々だったし、逆にトヨタの張さんがアメリカで工場を立ち上げたときの苦労話なんか聞くと、ものすごく新鮮に感じられましたね。若いとき、自分の商売を離れてそういう色々なことを知ることは非常に貴重だと思うんですね。

**醍醐** 私も三代目で、父が単位会の親会の副会長だったんですが、最初はちょっとうさんくさい団体だなと思ってました。だから、滅多に行かなかったんですけど、ある時、よく話しかけてくれる人がいて、それをきっかけに面白いと感じ始め、いつの間にかはまっていきました。知らない業界の人と話せることが何より魅力です。

**池田** 新しく入ってきた人を、どうフォローするかも大事ですね。最初の半年ぐらいでいいところに入ったなと感じてもらうことが大事です。

**醍醐** 知らないところに来て誰とも話さないで帰っちゃったら、もう二度と来ないですね。これだけ知らない業界の色々な人達がいるのにもったいないと思います。



## 会員増強と、もう一つの新しいチャレンジ

### 醍醐

実は、青連協会長をやらせていただく2年間で、新しくやろうとしている活動があるんです。一つは先ほどの会員増強、もう一つは税の「出」の部分についてです。法人会は今まで税知識の普及と納税意識の高揚を中心にやってきましたが、それってどちらかというと税の「入り」の部分でした。税のオピニオンリーダーたる経営者の団体としては、「出」の部分についてもこうだと提言できるようになっていくべきではないかと思っています。親会は税制委員会で検討したこともあるようですが、なかなか話しにくかったと思うんです。でも、我々青年部会ってまだ怖いもの知らずですので、若い世代から見た税の使い方について提言できるようにしたいと思っています。最初の1年は林前国税庁長官や、財務省主計局の調査課長の方に社会保障制度全般についてのお話をさせていただいたり勉強をしているところです。

### 池田

これは大事ですよ。日本は省庁別に予算が立てられますが、予算規模では厚労省、総務省、国交省、文科省の順だと思います。この仕組みにメスを入れない限りは、出の部分がなかなか改革できない。入りの部分は結局、出の部分とのバスターだから、なかなか難しいと思うんです。つまり、日本の税収を回すという意味では間接税を増やしていくことしかないんだろうと思います。だから、そのためのインフラをどう作っていくかっていうのが今、我々法人会が言ってる法人税の減税ってということで、要するに競争上不利にならないような税制にした上で、間接税にウエイトをかけていくようにしないといけない。逆に、国民にとってみれば現役世代が負担するという社会保障の仕組みを変えない限りは、もう駄目だろうと思っています。でも、青年部会がやるとしたら、まずあまり大きな提言ではなくて、何かテーマを絞った1番身近なところの税の使い方についてメスを入れた方がいいかもしれません。

### 醍醐

ぜひ、次の部会長にも引き継いで、青年部としての提言を出し続けていけるように出来ればと思います。では、最後に全国の青年部会員にメッセージをお願いいたします。

### 池田

いつも青年部会員の皆さんには熱心に活動していただき、全法連の会長として大変感謝しています。租税教育活動に代表されるような活動にも非常に感銘を受け、皆さんの熱意を感じております。今、親会として新しい行動理念を決めて、皆さんもその下でやっていただいておりますが、活動を活発化するのはやはり、会の組織をきちんとすることであろうと思っています。親会では会員増強を一つの大きなテーマにしていますが、青年部会がますます活発になるということが、イコール親会の活性になると私は思っています。ぜひ、皆さんの力を合わせて、ますます法人会を活発にしてくださることを期待しています。

### 池田 弘一【いけだ こういち】

1940年生まれ、福岡県出身

1963年に九州大学経済学部を卒業後、アサヒビール株式会社に入社。

埼玉支店長、広島支店長を歴任後、取締役、常務取締役、専務取締役を経て、2002年に代表取締役社長兼COOに就任。2006年に代表取締役会長兼CEOに就任後、2011年よりアサヒグループホールディングス株式会社 相談役。

公益財団法人全国法人会総連合では、2011年の副会長就任を経て、2012年より会長に就任。